

令和 5 年 6 月 11 日現在

機関番号：12608

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2019～2022

課題番号：19K03366

研究課題名(和文) がん治療選好の国際標準ハイリスク志向尺度構成：日本知見の米英ブルガリアへの敷衍

研究課題名(英文) Cancer patients' optimism toward full recovery: A cross-national hi-risk orientation survey in England, Hungary, Japan, and the United States

研究代表者

山岸 侯彦 (Yamagishi, Kimihiko)

東京工業大学・リベラルアーツ研究教育院・准教授

研究者番号：70286136

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：本課題は当初、令和元年から三年を予定していた。令和元年の目標中、日本、米国及び英国・勃国のがん患者の協力を得て質問紙調査の項目選定までは実現した。令和元年末より地球規模で新型コロナウイルスが猖獗を極め、四力国にて、目的であったデータ収集は不可能であったため、最終年度を一年延長した。令和五年五月現在、諸外国でCOVID-19対策が全廃され、データ収集は、令和五年に実施を始めている。研究期間全体を通じて実施した研究の成果としては、国際学会発表に留まるが、成果と呼ぶべき研究活動令和五年には、国際学会発表の継続、査読付き国際学術誌への論文投稿及び掲載などが企画されている。

研究成果の学術的意義や社会的意義

がん患者の希求であるハイリスク志向程度は、未だにがん医療者が心得る知見ではない。現状は、日本胃癌学会や日本乳癌学会が個別に「診療ガイドライン」を作成、あるいは「認定遺伝カウンセラー」が患者の遺伝情報から適切な治療を選ぶ等の取り組みがある。厚生労働省の「がん対策推進基本計画」基盤整備は「がん教育・がんに関する知識の普及啓発」を目標とする。これら共通目的は医学に無知な患者の啓蒙である。医学的取り組みにとって、患者は客体である。本研究は、患者の主體的・自発的な欲求を汲み取ることを目指す点で、既存の闘病方法論と一線を画する。加えて、日米英勃という並列比較によりがん患者の治療法選好を国際知見とする。

研究成果の概要(英文)：This research project was originally planned for the period of 2019 through 2022. Yet, the worldwide outbreak of COVID-19 prohibited the researchers from data collection in England, Hungary, Japan, and the United States (as originally planned) could not take place during 2020 through 2022. Now in 2023, data collection and analyses have started, and the cutting-edge data analysis, namely Structural Data Analysis, have been carried out by one of the fellow researchers in this project.

研究分野：認知科学

キーワード：がん治療 Shared decision making 治療楽観性

1. 研究開始当初の背景

研究開始当初には、下記の科学的欲求があった。

本研究の実証目的は、次の二点である。

目標(A): 日本知見であるハイリスク志向の個人差を、米国、英国およびブルガリア(以後勃国あるいは勃)で再検証し、国際的に一般化する。

目標(B): ハイリスク志向の個人差の、シンプルかつ安定した測定手順を国際標準化する。

これら目的は、次により独自性と創造性を備える。目標(A)について、患者の希求であるハイリスク志向程度は、未だにがん医療者が心得る知見ではない。現状は、日本胃癌学会や日本乳癌学会が個別に「診療ガイドライン」を作成、あるいは「認定遺伝カウンセラー」が患者の遺伝情報から適切な治療を選ぶ、または「Shared Decision Making」を通じた医師と患者の共同作業等の取り組みがある。厚生労働省の「がん対策推進基本計画」基盤整備は「がん教育・がんに関する知識の普及啓発」を目標とする。これらの共通目的は医学に無知な患者の啓蒙である。即ち医学的取り組みにとって、患者は客体である。本研究は、患者の主体的・自発的な欲求を歪み無く汲み取ることを目指す点で、既存の闘病方法論と一線を画する。加えて、がん患者の治療法選好に関する国外の研究動向が空白であるという現状を、日米英勃という並列比較により打破する。

目標(B)の理想は、肥満指標として広く使われるボディマス指数 (Body Mass Index, BMI) と同程度にシンプルなハイリスク志向測定法の樹立にある。BMI は、身長 h メートル体重 w キログラムから $BMI=[w \div h^2]$ と即時に算定可能である。本研究も、投影法テストのような非効率手順(被検査者一名の欲求同定に数時間を費やす)に頼らず、簡易アンケート回答からハイリスク志向のレベルを同定できる手順を確立する。

2. 研究の目的

上記、「研究開始当初の背景」を参照されたい。

3. 研究の方法

本研究は日本・米国・英国・勃国の国際協力体制を構える。研究代表者および研究協力者二名が、調査実施国を分担する。日、米、英、勃の四力国で並行したステップにより研究が進行する。日本は研究代表者、米国及び英国・勃国における研究遂行は、各々 Alan Schwartz 教授 (University of Illinois), Petko Kusev 教授 (University of Huddersfield) が担当する。両名が「研究協力者」である理由は、研究者番号を取得できない身分上の制約による。これら三名は国際比較研究・尺度構成のノウハウを蓄積しており、そのノウハウを本研究は活用する。

Schwartz et al. (2013) は、研究代表者との共著で意思決定研究におけるリスクテイキング態度測定「DOSPERT 尺度」日本語版を標準化した成果である。Schwartz et al. (2013) で同教授が振るったサイコメトリシャンの手腕が、本研究でも発揮される。

Kusev 教授は勃国出身であり、2002 年以来英国に在職し、2019 年 10 月から 1 年間のサバティカル滞在を出身大学である New Bulgarian University (勃国首都 Sofia) にて予定している (Fig. 2. 右側中段参照)。勃国データ収集はこの好機に乗じる。

日本におけるデータ収集は平原・山岸 (2009; 2011)と同様、「がん患者会」の協力を得る。首都圏及び近県の患者会より、内諾を得ている。米、英および勃国においては、Schwartz 教授および Kusev 教授が地域の「Cancer Support Community」及び「Група за подкрепа на рака」に協力要請し、ほぼ内諾を得ている。

4. 研究成果

本課題は当初、令和元年から三年を予定していた。令和元年の目標中、日本、米国及び英国・勃国のがん患者の協力を得て質問紙調査の項目選定までは実現した。令和元年末より地球規模で新型コロナウイルスが猖獗を極め、四力国にて、次の目的であったデータ収集は不可能であった。そのため、最終年度を一年延長した。令和五年五月現在、諸外国で COVID-19 対策が全廃され、本邦も同様の变化を期待し、補助事業期間延長中、データ収集による研究目的達成が望まれる。本課題申請書では、令和二年にデータ収集並びに国際学会発表を目標とした。それら目標遅延の挽回を、令和四年に試み、国際学会発表を行った。また、課題であった四力国データ収集は、令和四年に端緒に着き、令和五年に実施を始めている。研究期間全体を通じて実施した研究の成果としては、国際学会発表に留まるが、成果と呼ぶべき研究活動(国際データ収集、比較データ分析)は、令和五年現在も進行中である。令和五年には、国際学会発表の継続、査読付き国際学術誌への論文投稿及び掲載、研究計画参加四力国における国際シンポジウムの開催などが企画されている。加えて、研究計画参加四力国中の英国研究者は、四力国から収集したデータを「多母集団同時分析」即ちデータの母集団が異なることを認めたくて、集団間の

回答傾向の差の有無を検証する分析法の新たな手法を開発中であり、この成果も令和五年には定式化を終え、令和六年以降は、国際学会発表並びに国際学術誌掲載を視野に入れた統計技法開発も進行中である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 2件）

1. 発表者名 Yamagishi, Kimihiko
2. 発表標題 Et two, Decius Brute? Anchoring biases by mere presence of numbers.
3. 学会等名 The 60th Annual Meeting of Psychonomic Society, Montreal, Quebec (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yamagishi, Kimihiko
2. 発表標題 Tessio, Tu Triches? In Search of the Cheater Detection Module in Deductive Reasoning.
3. 学会等名 The 63rd Annual Meeting of Psychonomic Society, Boston, MA (国際学会)
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------